

## 「沖縄地域」における地域資料の記録からの教材開発【3】

— 地図と連携した沖縄の文化「シーサー」の教材化 —

Teaching materials development from the record of the local document in "the Okinawa area"

糸満翔子\*1／久世均\*2／齋藤陽子\*3

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、「国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること」とされ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが述べられている。これを受け、学校教育基本法の改正と学習指導要領の改正がなされ、その達成すべき目標の中に、明確に伝統・文化を尊重する態度を養うことが明示された。

そこで本研究では、小学校3、4年生の社会科に焦点をあて、地域に密着した教材を通して、地域のことをより身近に感じ、地域社会に対する誇りと愛情を育てたいと考えた。本研究では、地域に身近にあるシーサーに目を向け、沖縄県八重瀬町の有形民俗文化財「富盛のシーサー」から、シーサーの歴史、地域の人々の願いなどを考えることができるような教材を行う。そのためシーサーのデジタル・アーカイブ化を行ったので報告する。

<キーワード>

デジタル・アーカイブ、地域資料、伝統・文化、沖縄文化、シーサー

### 1. はじめに

あらゆる伝統・文化の基礎は、地域の伝統と文化にあり、我々はこれらの伝統の先端に生きている。伝統から文化を同時代性でもって創造していくことが、文化の創造であると考えている。だが、近年の科学技術の発展、情報化、国際化などが発展し、人を取り巻く環境が大きく変化してきた。この大きな社会の変化の中で、新しいものへの開発に力を注ぎ、人々の中から失われつつあるものがある。これまで受け継がれてきた慣習や信念、芸術等、「文化」が失われようとしている。もしくは、受け継がれても、あいまいとなっている。現在、それらは適切な手が打たれぬまま、失われようとしている。その失われようとしている伝統・文化をくい止めていく必要がある。このような近年失われつつある地域の伝統・文化に対して、それを伝統の最先端を行く子どもたちが、後世に継承していき、伝統・文化を継承していくように、していくことが大切である。そこで、子どもたちが、伝統・文化について身近に学ぶことができる場として、学校の授業を考えた。地域の伝統・文化を取

り入れていく単元としては、小学校社会科では第3学年及び第4学年において、自分たちが住んでいる身近な地域について学習をしていく。この中に、地域の伝統・文化素材を取り入れて教材化していく。地域の子どもたちが地域の伝統・文化を継承していく授業デザインを考案する。そして、後世に受け継いでいく、云わば「“知”の伝承サイクル」を目指した教材開発及び授業デザインの開発を行っていく。

### 2. 地域文化情報と学習指導要領

歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「伝統・文化」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、伝統文化を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばか

りではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

地域の伝統・文化による地域づくりを進めるには、まず、地域住民に地域の伝統・文化を周知し、共通認識として確立することが必要である。また、住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあって、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。さらに、地域の伝統文化は、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。

また、地域の伝統文化による地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけではなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。

一方、新学習指導要領では、伝統・文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国の国際社会の平和と発展に寄与することのできる児童生徒の育成のために内容の充実を行ったとされている。このようなことから、小学校における伝統・文化の教育が必要であることが明らかである。今回、地域の伝統・文化を教えていく教科として、「社会科」と「総合的な学習の時間」に着目した。学習指導要領小学校

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

社会科の目標では次のようである。

このように、今回の学習指導要領の改訂では、小学校「社会科」においては、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」と教科目標の中に、これまでの日本を理解していくことが挙げられている。その中で、日本特有の伝統・文化を受け継ぎ新しい文化を築き上げ、より良い社会にしていくことを重視していると考えられる。また、小学校4年生「総合的な学習の時間」において「沖縄には昔から続いている産業があり、それを受け継いでいこうとする人びとがいることに気づき、沖

縄の文化に対する誇りと愛情を育てる。」ことを目的とした。

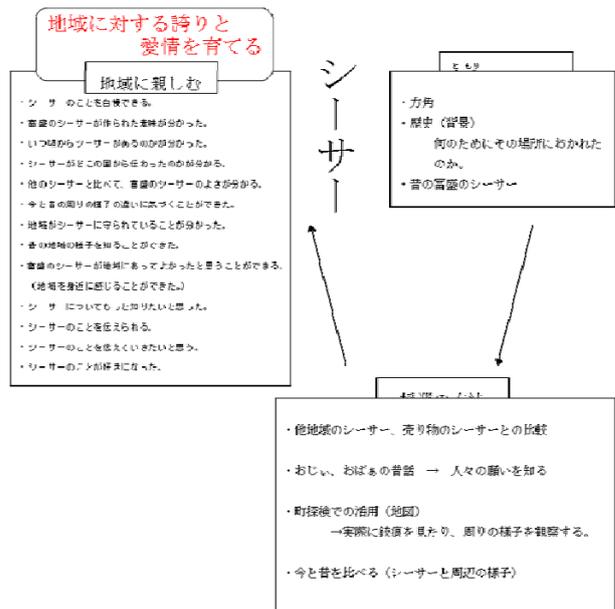


図1 活用事例

### 3. 沖縄の文化「シーサー」の教材の構成

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。ここでは特に、沖縄の文化「衣」の教材開発を「シーサー」を中心に次のような構成で行った。

- ①シーサー
- ・シーサーの利用されている様子
  - ・どのようなものがあるか
  - ・どこで、どのように作られるか

- シーサーは沖縄本島、何処の家にもある。⇒いろいろな場面の撮影を行う。
- 屋根の上、入口…それぞれ特色がある。
- それぞれ、小学校3・4年生の視点での分野や利用について

- ②シーサーの歴史的な背景
- ・昔話として、地域の人に聞く。
  - ・資料の提示

- シーサーはシルクロードを通して伝えられた話を昔話として聞く。
- いつから屋根の上にシーサーが上がったのか。(文字資料)
- シーサーと人のくらしとのかかわりについて。(文字資料)

### ③人の話

- ・おじい、おばあの話

○シーサーはなぜ村の入り口、高台、屋根に置くようになったのか。村獅子は（首里城の門・玉陵などにもあるのはなぜか。）守り神であることを話してもらう。

### ④関連資料

○歴史的にどのように伝わってきたか、②と整合  
→エジプト・インド等のライオン…獅子、シーサー

また、沖縄の文化「シーサー」の教材の構成については、図2のように構成した。

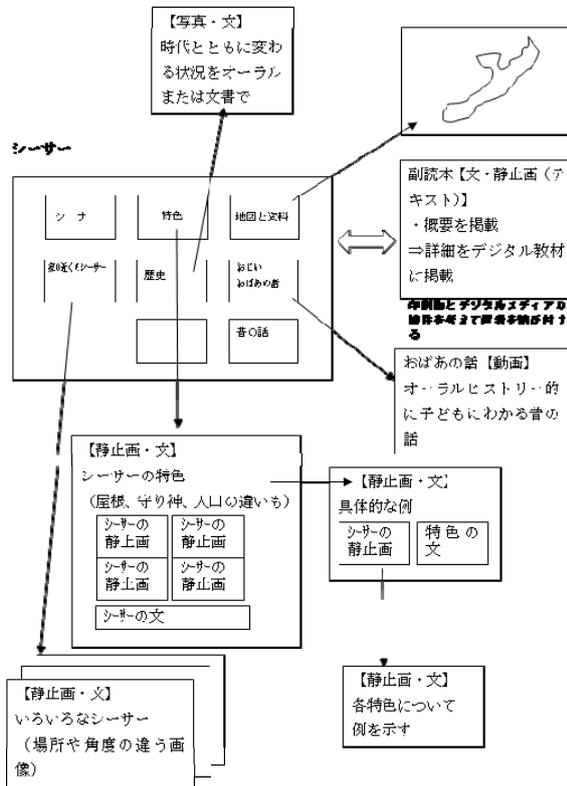


図2 教材の構成

この教材の構成を基に、沖縄の文化「シーサー」について、各基本情報(メタ情報)をまとめることが必要となる。

そのために、沖縄の文化「シーサー」について、次のような画面の構成にした。



①シーサーの特徴 ②シーサーの歴史 ③シーサーへの思い ④シーサー関連資料

図3 TOP画面



①富成の石獅子 ②首里城のシーサー

図4 特徴画面



①富成の石獅子はいつからあるのか ②シーサーと沖縄の暮らし

図5 歴史画面

これらの教材の構成は、沖縄の文化について、構造化するとともに共通のメニューで構成した。このことが、今後教材を調べたりする学習の中で指導が容易となると考えている。また、内容については小学校の3, 4年生でもわかる平易な表現にし、指導者には、関連資料画面にて詳細の内容がわかるようにした。

## 4. 沖縄の文化「シーサー」の収集

### (1)素材のデジタル・アーカイブ

シーサーは、沖縄県などで見られる伝説の獣の像。建物の門や屋根、村落の高台などに

据え付けられ、家や人、村に災いをもたらす悪霊を追い払う魔除けの意味を持つ。名前は「獅子(しし)」を沖縄方言で発音したものである。八重山諸島ではシーサーともいう。

スフィンクスや中国の石獅(石獅子)、日本本土の狛犬などと同じく、源流は古代オリエントのライオンもしくは犬と伝えられている。

元々は単体で設置されていたものだが、おそらくは本土の狛犬の様式の影響を受けて、阿吽像一対で置かれることが多くなった。阿吽の違いにより雌雄の別があり、各々役割があるとする説もあるが、研究文献等にそのような記述は見られず、近年になって創作された俗説である可能性が強い。

各戸の屋根の上に置かれるようになったのは、庶民に瓦葺きが許されるようになった明治以降である。それまでは、寺社や城の門、御獄(うたき)、貴族の墓陵、村落の出入り口等に設置されるのみだった。材質は石や陶器(素焼きまたは本焼き)、漆喰(しっくい)によるのが基本だが、近年ではコンクリートや青銅製のものもある。そこで、今回の教材開発のために富成のシーサーを中心に取材し、これらの取材から素材調査票を完成するとともに、これらの静止画や動画をデジタル・アーカイブ・収集した。



図6 富成の石獅子



図7 屋根の上のシーサー



図8 石嶺地区のシーサー



図9 小学校にあるシーサー

## (2) シーサーの分布と種類に関する考察

### (a) シーサーの種類

シーサーは、大きく分けて次のような種類に分類できる。

#### ■宮獅子

沖縄が琉球時代のころ栄えた首里王府に関係するシーサーである。沖縄での獅子文化初期に位置し、魔除けよりも権威の象徴して造形された。彫刻技術も大変優れている。

#### ■村落獅子

村の入り口や高台に守り神として設置されている。村落獅子は、悪霊の侵入や火難を防ぐ目的で、集落の入り口などに置かれている石獅子のこと。シーサーが屋根に上ったのは明治時代になってからである。有名な東風平町富盛の石獅子は村落獅子として最大最古といわれている。村落獅子は、ほとんどが集落の入り口、あるいはヒーザン(火の山)に向けて建てられている。村落獅子の文化が民間への普及の土台を作ったといわれている。

#### ■家獅子

宮獅子と村落獅子は、シーサーとはいっても公共的な役割でシーサーというよりも獅子像に近い。明治になり民間への赤瓦普及とと

もにシーサーも個人宅の屋根に乗り始めた。家獅子を大きく分けると、屋根獅子・屋敷獅子・門獅子となる。

一方、シーサーの焼き方からは次のような種類に分類される。

#### ■荒焼/赤焼

赤い瓦屋根に赤いシーサーで、沖縄ではもっとも多いシーサーである。

#### ■釉薬/上焼

上薬をかけて焼き上げる。主に屋内に置くシーサーとして人気があり、釉薬は、各工房で研究に研究を重ねた秘伝の薬を用いる。

#### ■漆喰シーサー

沖縄の屋根にいるシーサーは大きくわけて二種類のシーサーがいる。焼き物のシーサーと漆喰と瓦でつくるシーサーである。沖縄の屋根を彩る赤瓦だが、屋根獅子ととても重要な関係にある。赤瓦は明治初期まで首里周辺で焼かれてきたが、明治22年の解禁から、製造、製品流通及び建築資材集積で交通の利便性が良い与那原周辺へと瓦生産の中心が移っていき現在に至っている。

#### (b) シーサーの分布

これまでの調査では、屋根獅子は南部に集中して多く見られ、中部、北部、にいくにしたがって少なくなる。例えば南部の真壁村などは、屋敷内にある棟違いの瓦葺全部に獅子を据えるとか、また、一棟に二体据えるという例が多い。

それにひきかえ、北部、例えば、金武村の金武、並里村落を例にとると両村落の瓦葺棟数二、三百棟ありながら、屋根獅子はわずか四、五体しか見られない状況である。もっとも古老の話によると、戦前はかなり屋根獅子が用いられていたとのことであるため、これは戦後の現象であると思われる。戦前は、屋根獅子が最も盛んに用いられたのは、都市地区では垣之花、泊地方では漁村が多かったと言われている。

漁村に屋根獅子が多かったというのは、農村に比較して瓦葺が多かった事情にもよると思われるが、戦前戦後を通じ、このようにその分布に濃淡がみられるのは、明らかにいろいろな社会的乃至は民俗的要因が潜在するためだと考えられる。

このように、沖縄の地区において、どのような種類のシーサーが分布しているかは興味

深い。例えば子ども達により、地区のシーサーの分布を調べて、Google マップに張ることができる。いろいろな地区の子どもたちがシーサーの写真を撮影し、写真を添付することによりシーサー分布図（シーサーみつけ！）を作成することを計画している。

最近のカメラにはそのような機能があるので、デジタルカメラでも可能になる。



図10 Google マップの画面

## 5. 地域資料のデータベース

社会科などの教材として学校などで素材の共有を図るためには、本学で提案している地域資料データベース記録項目を基準としてメタ情報を作成することが重要である。(素材のみでメタ情報がない素材は、利用することができなくなり、最終的には情報のゴミになる。)

地域資料デジタル・アーカイブを行う場合、地域の地図などを利用しての位置情報に関するデータは重要である。また、新しい町づくりが行われたときに、新しい町の区画整理された場合に、地域資料に対しての戸籍を残していくことが大切である。その資料が「どこで」撮影されたか、またはどこに存在しているのか、つまり場所という領域を示している。このように、地域資料を記録するためには、いくつかの領域に従って纏めるべきである。

この視点で、地域資料の記録に必要な領域として、「何を」「どこで」「いつ」「どのような方法で」「だれが」「許可」(を得て撮影記録したか)、を取り上げ、設定した。これら各領域に属する情報を記録することにより、後世への地域の記録の継承、今後の地域教育活動、伝統文化学習、さらに提示資料の開発や共有を行うなど、適切な地域資料の利用に供することができる。

そこで、地域資料を記録するデータベースの記録項目にあたって、これらの視点で整備し、次のような記録項目の検討を行い、試

案を作成している

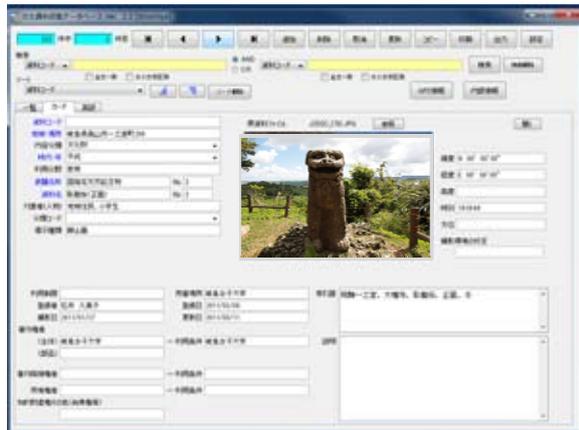


図9 沖縄地域データベース

### (a) 「何を」・・・内容

タイトル(表題名称, 提示資料名), 内容分類, キーワード(索引語), 説明など, 資料の内容にかかわる情報があてはまる。

### (b) 「どこで」・・・場所

地域資料のデジタル・アーカイブにおいて, 特に重要であると考え, 主として取り上げた位置情報カテゴリーにあたる領域である。緯度, 経度, 高度, 方向, 地図および地名, 施設名などを示す。緯度, 経度, 標高については GPS のデータを利用するため, GPS のデータを記録する際にその精度と関連して必要とされる, 地球上の位置を座標で表す前提条件である[測地系]を項目として追加した。

### (c) 「いつ」・・・日時

対象となる地域資料の記録の撮影年月日, 時刻の項目を示す。必要に応じて GPS のデータを利用する。

### (d) 「どのような方法」

地域資料の撮影記録の方法や撮影の状況などの記録項目を示す。特に, 位置情報の記録としては, 対象となる資料を撮影したデータを「撮影データ」, 撮影している状況を撮影したデータを「撮影状況データ」とした。また, それらの位置関係を示す図(地図など)も位置付けた。

その他, 周囲の様子を記録した 360° 全方位撮影や多方向映像などを併せて記録するとよい。

### (e) 「だれが」

撮影に関わる機関名または撮影者, データの登録者などを示す。

### (f) 「許可」

著作権, 所有権, プライバシーなどの権利をもつ団体, 個人などを示し, さらに, 利用に関する許諾の有無を示す。

表 1 に今回利用した沖縄文化情報データベース項目を示す。

## 6. おわりに

現在, 情報化・国際化の変化により今まで受け継がれてきた伝統・文化が失われつつある。この失われつつある伝統・文化を継承していく必要がある。そのためには, 今後の日本を背負っていく子ども達が伝統・文化を継承し, 子どもたち自らが伝統・文化を創り出していく心を育む教育が必要となる。自分たちにとって身近な地域から伝統・文化について知ることによって, 愛着をもつことができ, 子ども達は後世に伝統・文化を継承しようとすると考えた。

本研究においては, 伝統・文化を継承するための教材作成, 特に, 沖縄の伝統文化「シーサー」の教材作成の経緯とデジタル・アーカイブ手法に関して報告した。

最後に, 本研究を行うにあたって, 論文指導から細かくご指導頂きました岐阜女子大学学長後藤忠彦教授, 適切な助言を賜り, 丁寧に指導して下さいました, 齋藤陽子准教授に, 心より感謝申し上げます。

また, 久世均教授, 加治工尚子助教をはじめ, 岐阜女子大学の先生方に, 感謝の意を表します。

## 参考文献

- (1) 小学校学習指導要領解説社会科
- (2) 「逐条解説 改正教育基本法」 監督 田中 壮一郎 編著 教育基本法研究会